茜谷節子さん

やりたかった理想のお店をシンプルに追求。



お手伝いしてもらっている甥っ子さんと。

4年ほど前に、川越市から日高団地に越して来た茜谷節子さん。終の棲家にしようと、のんびりと過ごせる日当たりのいい住まいを求めます。ところが、事もあろうに引っ越しを予定していた前月に夫が他界。「しばらくは何も手につきませんでした」と当時を振り返ってくれました。

落ち込んでばかりもいられず、計画していたおばんさいのお店を自宅の一角でオープン。川越で同様の商売をやっていましたが、パートナーを失ったことで、すべての時間を自分のためだけに振り向けるしかなくなり、逆に思い描いていた夢を追求するようになります。

こだわったのは、顔の見える関係のなかで旬の食材を手に入れることでした。地元の農家さんから旬の野菜を提供してもらったり、畑を借りて野菜づくりにも挑戦。さらには、紹介してもらった漁師さんとつながり、熱海市網代まで魚を仕入れに行くようにも。「この齢になったら、やりたいことをやるしかないじゃない」と節子さん。持ち前のアグレッシブさで、お客さまから求められる理想のお店をつくり込んでいきます。

取材中にも、常連客に声を掛ける様子が…　今では、この団地になくてはならないお店になっています。



おかずの種類は豊富。朝4時頃には仕込みを始めるといいます。



茜屋さんは、「日高あんしんねっと」登録事業所 となっています。

おばんざいの店 茜屋　日高市高萩東1-28-12　水、木、金、土　11時～18時(休憩14時～15時半)

みんなでつくろう! 日高団地「まちなかおもいで写真展」

写真募集中!

- にぎやかだった頃の写真(お祭り・運動会・街並み)
- 店舗(新装開店)前や家の前で撮影した家族写真
- 取り組んでいた活動(ソフトボール・バレーほか)

収集場所(ご協力) ●日高こどな食堂 ●スーパーみどりや ●おばんさいの店・茜屋 ●日高団地自治会館

写真収集(小さくてもok) ➡ A4サイズのパネルにして ➡ 団地内の店舗・施設に展示

注意! ・顔がわかる写真は本人の許可を ・写真の様子を教えてください。

主催：日高こどな食堂。いしいデザイン 日高市社会福祉協議会ボランティア活動等支援事業補助金を受けている活動です

住めバ日高　発行：いしいデザイン(飯能市岩渕644-1)　取材執筆：いしいデザイン　デザイン：黒田デザイン事務所
配布協力：日高団地自治会　お問合せ 090-2663-2412　m330d625@yahoo.co.jp　第3号 2023年9月

住めバ日高



第4号

みんなでつくろう! 日高団地「まちなかおもいで写真展」

写真募集中!
※詳しくは裏表紙

高度成長期のど真ん中、この街は希望にあふれていました。
たまたまのご縁で巡り会った住民同志でしたが、
話し合い、知恵を出し合い、汗をかいて、
自分たちの**ふるさとづくり**をめざした時代がそこにありました。
一様によそ者の立場であったからこそ、大きな力を発揮し、
にぎやかで、**自由闊達な自治**が行われていたのです。



「手作りの神輿で、お祭りを開催」
「運動会は空地で。有志で整備した」
「バレーボールの対抗戦もやった」

今、そんな**キラキラしていた様子**が映し出された写真を
集めて、整理して、きれいにパネル印刷して、
団地内の**お店や施設に展示するイベント**を計画しています。
題して、みんなでつくろう!日高団地「まちなかおもいで写真展」。
「こんなに元気でおもしろい時代があったんだ!」と、
みんなで懐かしむことができる写真を募集中※です。





造成中の日高団地

日高団地のいいところは?

日高団地自治会様のご厚意により全戸配布しています。

若い人に聞きました!日高団地の いいところは?



おとなにも、こどもにも、いろんな人に知り合えた。

「日高こどな食堂」で、ボランティアをしている本多瑛美さん。日高団地に来て、人とのつながりがひろがったといいます。

中学生の時、森戸新田から越してきました。日高団地に来て、良かったと思うのは、たくさんの人が住んでいて、交友関係がひろがり、いろんな知り合いができたことです。森戸新田と高萩東は、小学校も中学校も同じ学校区内です。子どもの頃の思い出としては、ちびっ子広場での鬼ごっこかな。自転車でよく遊びに行きました。

高2の時から「日高こどな食堂」でボランティアをしています。人生の先輩方の話がいろいろ聞けて、充実しています。「ありがとう」「こんにちは。お久しぶりね」って、地域に人に声を掛けてもらえると、本当にうれしいです。人の笑顔を見ることが好きなので、コンサートなどイベントの企画・運営を勉強する専門学校に進学します。これからも、地域に関わり、何かの役に立てる人になりたいと思っています。

地に足を付けて、お店をやっていける。

7年前に日高団地に越して来て、ラーメン店をオープンさせた日塔涼さん。このまちで女の子2人と男の子一人のお父さんにもなりました。

今の時代は、お店の繁盛を左右するのはネットでの評判です。条件にあった物件がありましたので、ここでラーメン店をオープンすることを決めました。和菓子職人を目指した時期に仕事への向き合い方を教わり、その後転職。「おいしかった!」と、カウンター越しに反応が伝わるラーメン店にやりがいを感じました。

日高団地のいいところは、住民との距離の近さです。親戚や知り合いが来た際に、連れだって食べに来てくれることもあります。家族で住むにも良い場所なので、しっかりと構えて仕事に励むことができます。団地内の店舗からお肉などの食材を仕入れるようにしています。そして、もっと頑張ったら、協力しながら団地を盛り上げたい気持ちもあります。また、「ここに来てやってみない」と、飲食店仲間に声を掛けようとも思っています。

年配者の知恵と、若手のパワーがつながる。

「地域の場で動き始めている多様な活動をつなげたい」と考えている北川年和さん。持ち前のコミュ力が発揮されそうです。



結婚して、妻の実家がある日高団地に来ました。「仕事さえやっていれば」というタイプでしたので、地域活動に関わることはなかったですし、4人の子どもを設けましたが、子育てはほぼほぼ妻に任せっきり。3番目の子が中学の時に、PTA正・副会長や日高市PTA連合会長などを務めました。高齢化が進み、徐々に団地が寂しくなっていた頃だったと思います。

地域に目が向くようになると、「このまち、マズいかも」と、気になりだしたんですね。できることをやろうと始めたのが、古着のリサイクル活用。職場(廃棄物再生事業)に係ることなのですが、社長の承諾を得て、古着を地域で活用いただく取り組みを手掛けています。

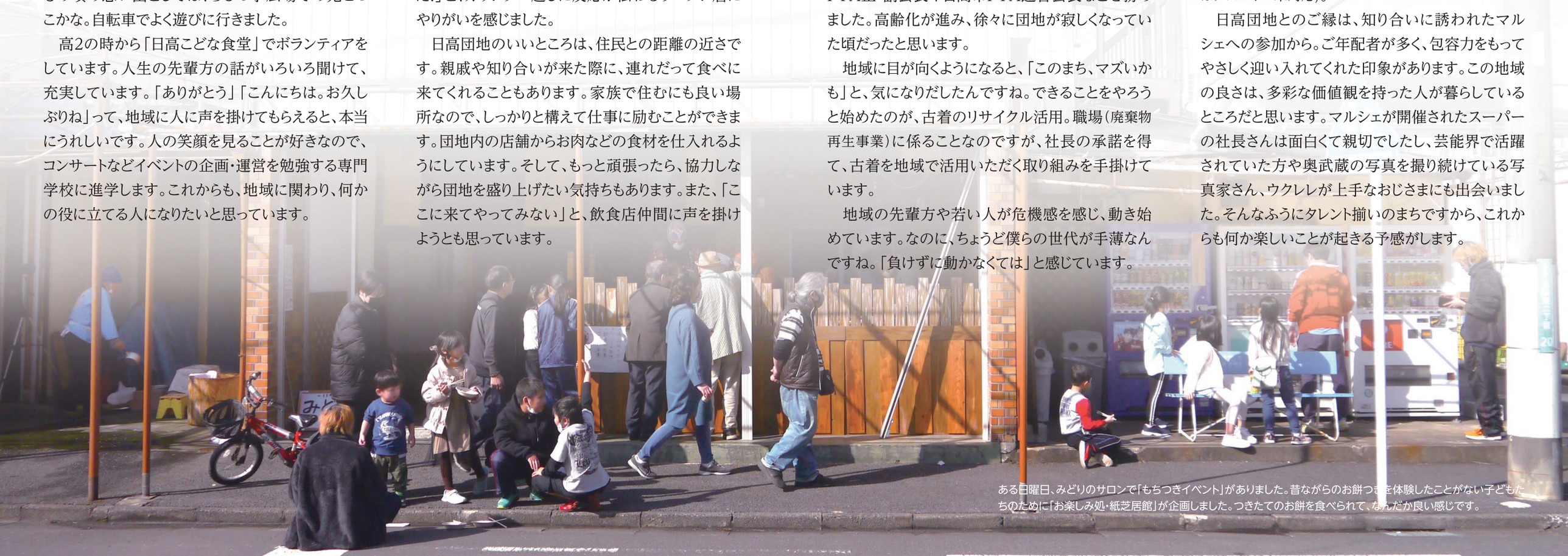
地域の先輩方や若い人が危機感を感じ、動き始めています。なのに、ちょうど僕らの世代が手薄なんですね。「負けずに動かなくては」と感じています。

すてきな方が暮らしてる!楽しくて刺激的なまち。

知り合いからのお誘いで、日高団地に足を運ぶようになったという田口昌美さん。誰もが溶け込めるおおらかな雰囲気が気に入っています。

日高市旭ケ丘でパン工房を営んでいます。食物アレルギーの我が子が食べられるようなパンを焼くようになったのがきっかけ。同じ悩みを持つ親子が多くいることを知り、自分ができることをしたくて、パンを提供するようになりました(※現在はアレルギー未対応)。

日高団地とのご縁は、知り合いに誘われたマルシェへの参加から。ご年配者が多く、包容力をもってやさしく迎い入れてくれた印象があります。この地域の良さは、多彩な価値観を持った人が暮らしているところだと思います。マルシェが開催されたスーパーの社長さんは面白くて親切でしたし、芸能界で活躍されていた方や奥武蔵の写真を撮り続けている写真家さん、ウクレレが上手なおじさまにも出会いました。そんなふうにタレント揃いのまちですから、これからも何か楽しいことが起きる予感がします。



ある日曜日、みどりのサロンで「もちつきイベント」がありました。昔ながらのお餅つきを体験したことがない子どもたちのために「お楽しみ処・紙芝居館」が企画しました。つきたてのお餅を食べられて、なんだか良い感じです。